

インドネシアの 「2013年カリキュラム」と 高校日本語教科書作成

上野美香

東京経営短期大学専任講師
元国際交流基金インドネシア派遣日本語専門家

エデ(デウィ・クマラ・トゥリスニ)

インドネシア国立・ブキティンギ第5高校教諭

発表のながれ

1. インドネシアの「2013年カリキュラム」
 - 背景とその特徴
2. 「2013年カリキュラム」に沿った高校日本語教科書の開発
 - 科学的アプローチと教科書作成のプロセス
3. 「2013年カリキュラム」による高校日本語授業の実践
 - エデ教諭の実践と振り返り
4. 今後の展望

2

1. インドネシアの 「2013年カリキュラム」

1. 「2013年カリキュラム」-(1)歴史的背景-

パンチャシラ(建国5原則)

- ① 唯一神への信仰
- ② 公正で文化的な人道主義
- ③ インドネシアの統一
- ④ 合議制と代議制における英知に導かれた民主主義
- ⑤ 全インドネシア国民に対する社会的公正

3

4

1. 「2013年カリキュラム」-(2)国内外の状況

・生産年齢人口の教育課題

2001年、2006年のカリキュラム改訂

- ・グローバル化
- ・国際社会における教育の発展
- ・国際学力調査(TIMSS, PISA等)の結果

2013年のカリキュラム改訂

人格の形成
道徳観の育成

1. 「2013年カリキュラム」-(3)理念的背景

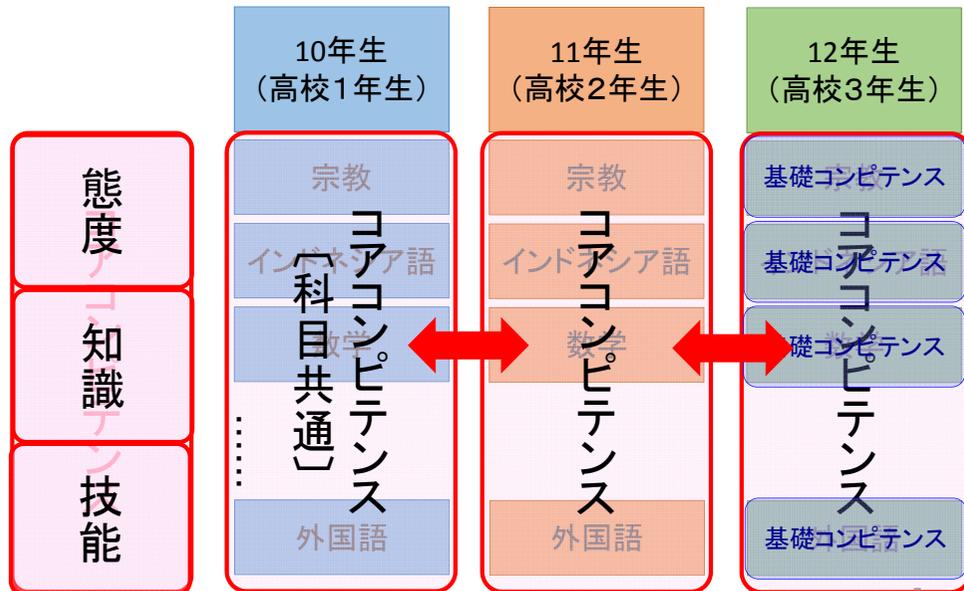
コンピテンシー

21世紀型スキル

- ・国際化される社会で活躍できる人材
- ・21世紀型スキルを身につけるための教育

2013年のカリキュラム改訂

1. 「2013年カリキュラム」-(4)学習目標



1. 「2013年カリキュラム」-(5)教育の方針

- ① **学習者中心**
- ② 双方向的・相互的な教育手法
- ③ ネットワークの活用
- ④ 受け身から自発的な教育方法へ (**科学のアプローチ**)
- ⑤ グループ学習
- ⑥ マルチメディアの活用
- ⑦ 各学習者の潜在的可能性の発展、
学習者のニーズを満たす教育手法へ
- ⑧ 多分野(他教科)との連携 / 協同
- ⑨ 受動的から批判的 / 批評的な教育手法へ

科学的アプローチの学習プロセス

学習手順	学習活動	開発されるコンピテンス
観察	読む, 聞く, 聞き取る, 見る	態度(真剣・丁寧), 情報収集力
質問	観察で理解できないことを質問する, または追加情報を得るために質問する	創造性, 探究心, 批判的思考力, 質問能力
情報収集 実験	実験を行う, 教科書以外の資料を読む, 対象・事象・活動の情報源となる人にインタビューする	態度(丁寧・正直・礼儀正しい), 他者の意見の尊重, コミュニケーション能力, 情報収集能力, 生涯学習につながる学習習慣・能力
関連付け 情報処理	集めた情報を処理する (より広く深く情報を収集する, 異なる意見・対立する意見など様々な情報から解決策を探し出すなど)	態度(正直・丁寧・まじめ), 規律, 努力, 手順適用能力, 帰納的思考・演繹的思考により結論を出す能力
コミュニケーション	分析に基づいた観察結果・結論を 口頭・文書・その他の媒体で伝える	態度(正直・丁寧・寛容), 体系的思考, 簡潔に意見を表明し, 適切で正確な言葉を使用する能力

2. 「2013年カリキュラム」に沿った 高校日本語教科書の開発

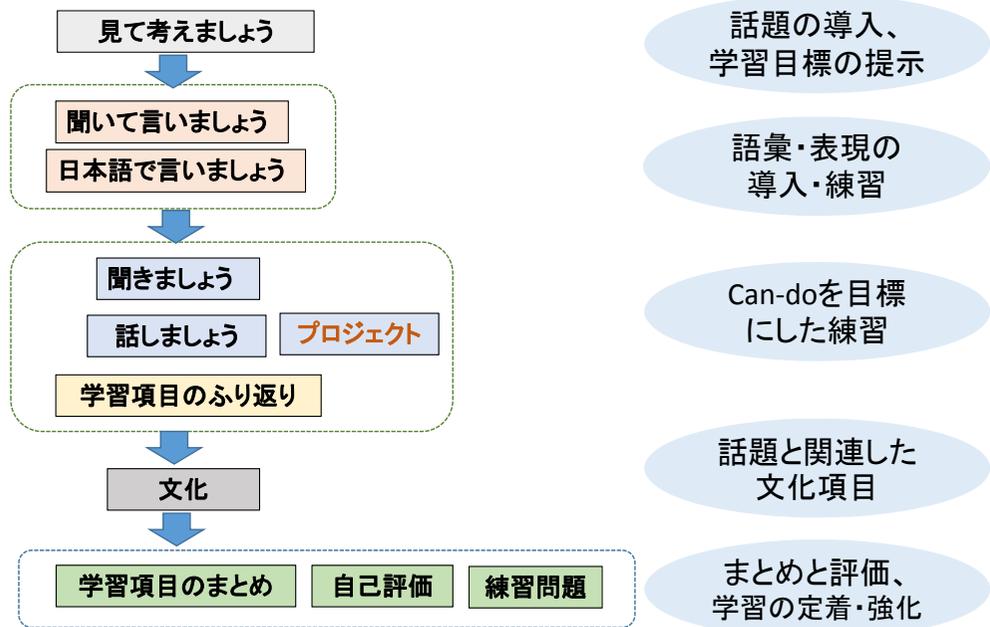
(1) 教科書作成プロジェクトの概要

期間	2014年11月～2016年6月(予定)
対象	普通高校や宗教高校の語学コースの選択必修 (学習時間が少ないその他のコースの選択科目や 専門高校での使用も可能)
学習時間	1年生(81時間)、2年生(108時間)、3年生(54時間)
構成	生徒用本冊、教師用指導書、授業用PPT(音声付)
執筆	JFジャカルタのインドネシア人講師(1名) 派遣専門家(4名)
2015年3月より5地域、約10校で試用中 2016年前半に教育文化省の審査を経て、出版予定	

(2) 教科書の特徴

- ① 身近な話題、実用的なコミュニケーション(Can-do)をとりあげた学習目標
- ② 自分で考え、発見する文法学習
- ③ 日本語と日本、日本人の生活を知ることを通して、自分と他者、社会を考える
- ④ 考える、作る、伝える「おもしろさ、楽しさ」が実感できるプロジェクト(カードやポスター作成、クラス内調査、発表など)
- ⑤ 豊富な視聴覚リソース(カラー写真やイラスト、音声教材)

(3) 各課の構成と学習の流れ



「第6課 ここは図書室です」のプロジェクト

- 目標：日本語学習を通して学校内の環境美化に関心、責任を持つ

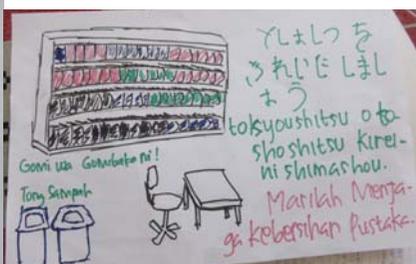
活動(グループワーク)	学習過程
1. 学校内の各所へ調査に出かける	観察 → 質問 (理由など)→ 関連づけ
2. 調査結果を発表する	伝達 「図書室はきれいです。」「ろうかは少しきたないです。」
3. 校内美化ポスターを作成する	伝達 「ろうかをきれいに!」、「ごみはごみばこに」
4. ポスターコンテスト(投票は個人)	評価基準 (a)メッセージが伝わる (b)日本語、インドネシア語が正しい (c)おもしろい

「 」内は日本語での産出例



活動(グループワーク)	学習過程
1. 学校内の各所へ調査に出かける	観察 → 質問 (理由など)→ 関連づけ
2. 調査結果を発表する	伝達 「図書室はきれいです。」「ろうかは少しきたないです。」
3. 校内美化ポスターを作成する	伝達 「ろうかをきれいに!」、「ごみはごみばこに」
4. ポスターコンテスト(投票は個人)	評価基準 (a)メッセージが伝わる (b)日本語、インドネシア語が正しい ¹⁵

活動(グループワーク)	学習過程
1. 学校内の各所へ調査に出かける	観察 → 質問 (理由など)→ 関連づけ
2. 調査結果を発表する	伝達 「図書室はきれいです。」「ろうかは少しきたないです。」
3. 校内美化ポスターを作成する	伝達 「ろうかをきれいに!」、「ごみはごみばこに」
4. ポスターコンテスト(投票は個人)	評価基準 (a)メッセージが伝わる (b)日本語、インドネシア語が正しい (c)おもしろい



活動(グループワーク)	学習過程
1. 学校内の各所へ調査に出かける	観察→質問(理由など)→関連づけ
2. 調査結果を発表する	伝達「図書室はきれいです。」「ろうかは少しきたないです。」
3. 校内美化ポスターを作成する	伝達 「ろうかをきれいに!」、「ごみはごみばこに」
4. ポスターコンテスト(投票は個人)	評価基準 (a)メッセージが伝わる (b)日本語、インドネシア語が正しい (c)おもしろい

活動(グループワーク)	学習過程
1. 学校内の各所へ調査に出かける	観察→質問(理由など)→関連づけ
2. 調査結果を発表する	伝達「図書室はきれいです。」「ろうかは少しきたないです。」
3. 校内美化ポスターを作成する	伝達 「ろうかをきれいに!」、「ごみはごみばこに」
4. ポスターコンテスト(投票は個人)	評価基準 (a)メッセージが伝わる (b)日本語、インドネシア語が正しい (c)おもしろい

3. 「2013年カリキュラム」による 高校日本語授業の実践

3. エデ教諭の実践 -教育理念(1)-

- ・教師は教えながら、生徒の態度を直すことができるものだと思います。
でも、それは言葉によって直接言うのではなく、問いかけたり、投げかけたりすることで、導くことだと思っています。
- ・生徒には自分で考えて、自然と自分の態度を変えて、なおかつ楽しく勉強してほしいです。
- ・日本語の授業でも、地理や社会学などの他の科目と結びつけて学べると考えています。

3. エデ教諭の実践 -教育理念(2)-

・これら、今大切にしていることは、
「2013年カリキュラム」について考え始めてから、
とても大きく変わりました。

一番大きく変わったのは、生徒の態度を変える前に、
何よりもまずどうやって教師自身が日々の生活
態度をあらためるか、ということを考えるように
なったことです。

これらは、「2013年カリキュラム」が始まる前には、
あまり考えたことがありませんでした。

21

3. エデ教諭の実践 -以前の生徒-

・「2013年カリキュラム」について、私が考え始めてから、
生徒たちも大きく変わりました。

前は、授業中、私がずっと話していました。
生徒たちは聞くことしかできませんでした。
聞いて、私が言ったことをそのまま書いていました。
私が作る例文が、時々自然ではなくても、生徒はその
まま書いていました。
自分の意見は恥ずかしくて、何も言えませんでした。

22

3. エデ教諭の実践 -以前の生徒-



23

3. エデ教諭の実践 -生徒の変化-

・「2013年カリキュラム」の授業を始めて、
生徒たちはインドネシア語で自分の意見を言ったり、
習った日本語で話したりできるようになりました。

なぜかと言うと、「2013年カリキュラム」では、
教師がファシリテーターだからです。
生徒たちに何か見せて問いかけると、自分の意見を
を恥ずかしがらずに言えました。

授業中、生徒たちがたくさん話せるようになりました。

24

情報収集

- **観察**
- **質問** (理由など)
- **関連づけ**



関連付け・情報処理



26

- 授業の様子(映像)

周囲への伝達

27

28

3. エデ教諭の実践 -今後の挑戦-

- ・まず、私自身が態度、知識、技能といった面から質を高めていきたいです。

そして、生徒がよりよい社会や環境と関係しながら、よりクリエイティブで批判的な考え方ができるようにどうやって働きかけたらいいのか、考え続けたいです。

29

4. 今後の展望

30

海外での日本語教育として

- インドネシアの「2013年カリキュラム」に関する政府の動向や教育現場への定着プロセスを注視
- 国際教育協力という視座からの日本語教育をより深く議論する
 - * 歴史的・社会的・文化的背景
 - * 教育政策に即した日本語教育
 - * 現地の先生方の主体性
 - * 現地によりそった協同実践

31

参考資料・文献

- 国際交流基金(2015)『21世紀の人材育成をめざす 東南アジア5カ国の中等教育における日本語教育-各国教育文書から見える教育のパラダイムシフト-』国際交流基金日本語国際センター
- 田中義隆(2015)『21世紀型スキルと諸外国の教育実践——求められる新しい能力育成』明石書店
- 松本剛次(2014)「インドネシアの中等教育改革がめざす「能力(コンピテンシー)」とその育成」『日本語教育』158号、97-111、日本語教育学会
- インドネシア教育文化省(2013)“Salinan Lampiran Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan Nomor 69 Tahun 2013: Tentang Kerangka Dasar dan Struktur Kurikulum Sekolah Menengah Atas/Madrasah Aliyah”
- インドネシア教育文化省(2013)“Penjelasan Menteri pendidikan dan kebudayaan Kurikulum 2013 kepada Nara Sumber Pelatihan”